八ヶ岳　石尊稜･小同心クラック

L 白土、伊藤（記）

2009年4月18日～19日

前夜、道の駅「小淵沢」集合で伊藤の車を残地し白土車にて美濃戸口まで前進した。
冬季にはアイスバーン状態だった林道も今は夏道同然であった。

4/18日　（晴れ）

3時に起床し荷物を整え満天の星空の下を出発、フリース一枚で充分な気温だ。日が昇りきった頃に赤岳鉱泉に到着、御誂えむきの林脇にテントを張り、ギアの準備をして石尊稜に出発。中山乗越から林の中をトラバースして取り付き下の沢に出る。トレースを辿りフィックスロープが垂れ下がっている立木に取り付きの目星をつける。陽はまだこちら側には顔を出していないが十分暖かいし風もない、白土さんトップで登攀開始。手頃なホールドの多い草付の斜面を2ピッチでこなし一旦ロープを解く。岳樺を掴みしばらく登るとナイフリッジになった所になり、肩絡みでスコップを埋め中間支点を取り慎重に進む。蹴り込んでも大して足が決まらず下手な岩場より怖い。
雪稜を越えると上部岩壁が現れ、3ピッチ程で石尊峰に出た。他パーティもおらず非常に快適なクライミングだった。地蔵尾根を下降し赤岳鉱泉へ。夕食まで時間もあるので僕はビールを白土さんは米を炊きつつワインで一杯やる。春はいいよなぁ、まったく贅沢よ。

4/19日　（晴れ）

3時に起床しうどんを食い出発、少し雲が出ているが今日も天気は良さそうだ。大同心沢を詰め、適当な所から尾根伝いに大同心基部を目指す。大同心基部から右へ岩壁沿いにトラバースし小同心基部へ。取付きから見上げる小同心は昨日の石尊と比べるとなんともダイナミックだ。白土さんトップで登攀開始。ホールドは豊富だが、脆い所が多いので確かめつつ慎重に行く。ロープ半分位でしっかりした支点があるので結構細かく切っていける。チムニーというだけに終始煙突登りを想像していたがそれらしいのは2か所ほど。しかし高度感があり十分緊張する。小同心の頭からコンテで横岳基部まで100m程進む。もう雪も溶けて夏道状態。基部から3ピッチで抜けると白土さんが横岳の看板でビレーしていた。今日も風も無く夏のように暑い、しかも静かだ。後続パーティはまだ小同心辺だ、しばしマッタリ過ごしたのち硫黄から赤岳鉱泉に下った。

4/18（土）　美濃戸　3：50～赤岳鉱泉5：35
6：35鉱泉～取付き8：00　～石尊峰12：30～鉱泉14：40
4/19（日）　鉱泉4：30～大同心基部8：00
小同心6：30～横岳10：00
12：20鉱泉～14：40美濃戸

＜横岳にて＞